

Alma Mater SAPIENTIA

英知大学同窓会会報

Vol. 10 Oct. 10, 1998

発行：英知大学同窓会
〒661-8530
兵庫県尼崎市若王寺2-18-1
発行責任者：野村裕
編集：英知大学同窓会

- 開学35周年を迎えて 1
- 学長からのご挨拶 ●六甲セミナーハウス開設 2
- 事務局移管のお知らせ ●同窓会に思う 3
- 同窓会のあり方 ●同窓会と国際言語教育センター 4
- 会費徴収システムについて ●香港園リポート 5
- 関東支部だより ●和歌山グループ講演会開催 6
- 同窓会功労賞受賞者の声 ●留学生からの手紙 7
- 開学35周年とホームカミングデイ ●スクルス先生退官を祝う会 8

開学35周年を迎えて

会長 野村裕

会員および準会員の皆さまには、お変わりなく元気で活躍のことと思います。私たち、役員一同も、開学30年の節目より前任者の方々から引き継いでから、はや5年を数えることになりました。今回、開学35周年の節目にも立ち会わせていただくことになり、光栄の至りと感謝いたしております。これまでこれまでも、会員各位のご支援とご協力の賜物と深く感謝しております。

また、この会報も、担当役員の方々と会員の皆さまのご支援で続けてこれたことを思うと、感慨深いものがあります。

開学35周年記念として、大学ではシンボルトワー「サピエンチア・タワー」が完成し、そのお披露目式が9月10日に開催されました。また、同窓会としても、開学35周年記念ホームカミングパーティーを11月3日に計画しております。どんな変わって行く大学のキャンパスを一度訪ねていただき、ぜひともご自分の目でご確認ください。当日は、多数のご出席を心よりお待ちしております。

さて、突然ではありますが、同窓会の事務局が、就職部就職課から、大学の都合により総務部へ移行することに



なりました。

役員一同、仕事をしながらの活動では、いろいろな制約を受けます。我々が独自で事務局員を雇い、それを管理・運営できるまでに会を発展させたい。これが我々の願いでした。前任者より会をあげた当初は我々にそこまでの力はありませんでした。それが可能となるまでの間をと、事務局運営のお手伝いを引き受けていただいたのが就職課でした。

以来3年ものあいだにわたり、事務的なこと、大学側との相談、卒業生からの問い合わせの窓口など、数え上げるとキリがないほどのご支援、ご協力をいただきました。ここまで活動ができたのはそのことの賜物であり、感謝の気持ちで一杯であります。

この6月に大学から同窓会の窓口と

事務局を総務部へ移管するとの通達がありました。会として数度、大学と面談を持ち、善後策を協議しましたが、大学の決定は揺るぎませんでした。我々役員、総務部ともに突然のことであり、いまだ、以前のような事務局の機能、体制には復帰できません。

また、総務部としても現在の大学業務との兼務になり、人的、時間的束縛がある限り、従来のようなご支援は無理と考えます。今後しばらくの間、会員の皆さまにはご迷惑をお掛けしますが、ご容赦くださいますようお願いいたします。

これを機会に、我々独自運営での事務局設立へ向けて、少しずつ努力してまいりたいと思います。今後、皆さまからのますますのご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。



創立35周年を迎えて

学長 岸英司

英知大学創立者田口芳五郎枢機卿が亡くなられて20年となりました。また創立当時副学長として創立の業務にかかわられた安田久雄大司教様も今年の4月理事長を退任され、創立以来英知大学にかかわっているのは私ひとりとなりました。

同窓生の皆さん、ご承知のように、英知大学はいま国際文学科学科を加えて文学部5学科となり、また大学院人文科学研究所は2専攻をもつ博士課程前・後期となり、外国での規格に合致する、ドクタ

ーコースをもつ大学となりました。アメリカ、フランス、スペイン、中国に姉妹校、提携校をもつ大学となりました。これも第一回卒業生以来の皆さんの社会におけるご活躍のご支援によるものと思います。

3年前からキャンパスの整備にとりかかりました。ご来学下さればお分りのように、大学の前の溝は歩道になり、正面から入った道は本当の煉瓦敷になり、けやきの木が植えられました。

教員と学生、学生と学生の語

らいの家である「コロクトリウム・サビエンチア」は昨年竣工し、また本年9月には10階建の「サビエンチア・タワー」が完成しました。11月3日の同窓会総会においての皆さんにはこの中をゆっくりごらん頂きたいと思

います。

地震の起きる前は、驚くほどの受験生がいましたが、地震以後、関西の大学の地盤は沈下し、さらに受験人口の減少は毎年進み、今年ほどの大学も受験生、入学者の確保に全力をそそいでいます。英知大学はいまキャンパスの整備を終え、また教授陣はかつてない程充実しています。1999年度の入試に成功したいと念願しています。

同窓生の皆さんも、母校のさらなる発展のため、ひとりでも多くの受験生に英知大学のことを話して下さい。21世紀は、さらに飛躍する大学にしていきたい

ように。経済的に苦境にある今の日本で皆さんの社会におけるご発展をお祈りして私の挨拶とさせていただきます。



サピンチア・タワー

- 10F 大ホール
- 9F 会議室
- 8F スカイラザ
- 7F キリスト教文化研究所
- 6F 人文科学・国語言語研究室
- 5F 講義室
- 4F 演習・自習室
- 3F 経理課
- 2F 学生課・教務課
- 1F エントランスホール

英知大学 六甲セミナーハウス開設される

六甲山ケールブル山頂駅より徒歩10分程。うっそうとした緑におおわれた玄関に入り、20m程の坂を登りきった所に白い壁をもった瀟洒な建物が……これが第一印象でした。

中に入って各室を見て回り、

そのすばらしさに驚きました。庭越しに見える大阪、神戸の街並（夜は100万ドルの夜景）。本当に素晴らしいセミナーハウスでした。以前が山一証券の保養所と聞いて納得……。

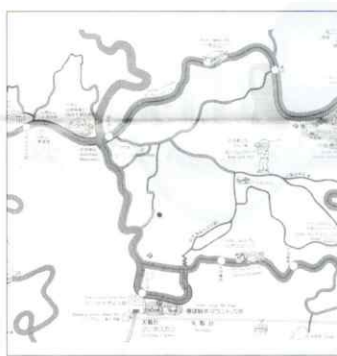
●住所／神戸市灘区六甲山町 一ヶ谷1-28

学校法人英知学院英知大学

六甲セミナーハウス

TEL 078-891-0275

TEL 657-0101



同窓会事務局

移管のお知らせ

会長の冒頭の挨拶にもありまし

たように、同窓会事務局が今まで
の就職課から総務課に突然移管さ
れました。あまりにも突然のこと
でしたので、我々自身がどう対処
すればよいのか、今だもって事務
局は仮死状態です。就職課の須澤
課長におかれましては、この3年
間自分の時間を割いてまでご協力
してくださり、そのご努力に対し
て感謝を申し上げます。

我々が須澤課長から教わったこ
とは「自分たちが50歳台、60歳台
になったときに同窓会の有難み、
恋しさというものがわかってきま
す。その同窓会を陰ながら支えて
いく役員の方々は大変でしょう
が、そんな皆さんの笑顔を見るこ
とが楽しみなのではないですか」
まさしくそれはボランティアの精
神だと思います。誰のため、何び
とのためではなくただその笑顔が
みたいがためだけなのです。この
突然の交代劇がどうして起こった
のか我々には分かりませんが、こ
れ以上分かつても無駄な事
だと思えます。それより、これか

らの同窓会事務局をどう建て直し
てゆくのか、そして自立してゆく
のが我々の次の課題だと思いま
す。就職課で今迄かかわってきて
いただいた皆さまのおかげで基礎
固めが、ここまでできました。

これを今度は総務課の皆さまの
お力を借りながら、何年かかるか
分かりませんが自主独立できるよ
う頑張らなければと思います。幸
い、総務課には金森輝雄事務局長
を始め、田中賢一課長、そしてほ
とんどの卒業生が知っておられる
足立みちこ様、強力な助人として
卒業生で主任の玉出康雅様（77英
卒）、三木美也子様（94英文卒）
の皆さんがおられます。尚、同窓
会専用の電話番号は変わりません
ので、わが家に帰ったつもりでお
気軽にお電話下さい。所在地は
校門を入ってすぐ左、本館1階で
す。卒業生6500余名の味方です。

●兵庫 兵庫 尼崎市 若王寺

2-18-1

英知大学 総務部 総務課内

英知大学 同窓会 会長 野村裕

TEL・FAX 06-498-6258

■同窓会では事務局員を募集
しています。週1〜2回勤務
できる方（勤務先は大学内事
務局）希望は英知大学卒業生
の方で自転車通勤ができる方

「同窓会」に想う

英知大学 就職部 就職課長

須澤晃

8月25日、中学・高校の恩師
とともに東京の同窓会に出かけ
ました。師はドイツ人で82歳で
す。今では日本に帰化し、神父
として現在も活躍です。

今年7月、師が司祭となって
50年の金祝のお祝いの会を神戸
で開催しました。懐しい同窓生
が駆けつけ、お祝いに希望され
たボーリングのボールとシュー
ズをプレゼントしました。もち
ろんボーリング大会となったの
は、言うまでもありませんが、
52歳のわれわれ以上に元気なブ
レーを拝見し、そのご健康に心
からお祝いしました。

これを聞きつけた東京の仲間
が、ぜひ東京でもと集まること
となり、私はそのお共を仰せつ
かった訳です。新幹線の中では
懐かしい話に花が咲き3時間は
あつと言っ間でした。その夜の
宴は12時を過ぎても続きました。
翌朝は上智大学前の新築なつ
たイグナチオ教会で仲間の健康
と7名の逝去者のめい福を祈り
ました。この年になったからで
しょうか、仲間は私に強い癒し
の時を与えてくれました。

さて英知大学同窓生の皆さま

には、日々ご健勝のことと存しま
す。日本は世界的不況の中で瀕死
の状況であり、皆さまのお仕事に
も幾多の影響がおりと拝察いた
します。同窓生の皆さまのご活躍
をお祈りいたします。

ところが突然ながら、7月よ
り同窓会事務局代行業務は、就職
部就職課から総務部総務課へ移管
することとなりました。そこで同
窓会についての想いの一端をお伝
えし、各位への感謝に代えさせて
いただきます。

同じ学窓を巣立った卒業生を
同窓生と呼びますが、同窓会はその
同窓生の親睦と母校への後援を
進める基盤となるものです。さら
にその幹事役員にはそれなりに重
要な役割があり、一時の思いつ
きや憧れだけでは務まるものでは
ありません。いずれの場合もいつ
の時代も、その活動は全同窓生と
母校と在学生のため、さらには将
来の入学生のためのボランティア
であります。ボランティア活動
は、今日自分が生かされているこ
とへの感謝の表現でもあります。

時には、なぜこんなことを引き受
けたのだらうと自暴自棄に陥りそ
うになったり、勝手な理由をつけ
て逃げ出したくなることもありま
す。しかし、そこで義務感や虚栄
心だけで乗り切ろうとすれば、続
かなくなりません。必ず無理が生じ
るのです。

私も二つの同窓会幹事を引き

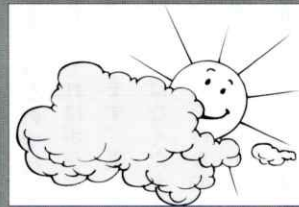
受けていますが、常に無理を背
負い込まず、できる範囲で多く
の同窓生とともに活動することに
しています。やりたい人がやり
たいようにやることは、必ず
しも適切ではありません。全同
窓生の心の代表として、豊かな経
験と高い見識のうえに、起業家
精神を尊重しつつ献身的に計画的に
継続されなければなりません。

そこで最後に一つのご提案は、
卒業年毎のあるいは学科毎の代
表幹事による活動基盤を創るこ
とであります。全ての活動の認
識を深め、活動の活性化につな
がるものです。卒業式時には、
その代表者が決められており全
員に認識させることも一案とし
よう。卒業後に依頼することは
極めて困難であり、同窓生の認
識も薄く活動につながるものと
なりません。

新たに出發し始めて六年目の
現役員各位には、誠に心労の絶
えないことですが、かつてのシ
ステムから新たに代議員を選ぶ
ことは、実に大変なことですが、
一気には大きな実現を期待するの
ではなく、小さいながらも本質
的なことを継続することにより、
協力者と参加者を増やしていく
ことが基本でありましょう。

一日も早く多くの同窓生の心
の憩いと癒しの場として成長さ
れんことを祈念し、今日までの
ご好誼に深く感謝申し上げます。

同窓会レポート



英知大学と同窓会のあり方

にかかっているといっても過言ではありません。「卒業生の活動」「卒業生の業績」「卒業生の人柄」等で大学の評価が左右されるのです。

このようなことを考えるとき、大学としてはもちろん、卒業生にとっても、卒業してしまつたら「終わり」とは考えられません。あくまでも「英知大学」の「同窓生」として、運命共同体なのです。そのためにも、同窓生が互いに結びあれて、組織化されていることが必要なのです。

とは言つても、「同窓会」の運営というものは、現実的にはなかなか難しい点があります。毎日自分の本職だけで忙しい中で、同窓会のためにあまり時間を割くことが出来ないのが現状です。しかしそのために専門の人を雇うほどの財源もなければ、それほど仕事があるわけでもありません。かといって、誰も何もしないでは済みません。

多くの同窓生の中で時間を提供できる人がみずから名乗り出て手を貸すという以外に名案は浮かびません。ただ、そのためには、同窓会の「役割」と「重要性」がもつと認識されなければならぬと思います。

数において劣っているところを、絆の深さで補うことができれば、英知ファミリーの未来にも希望がもてます。

英知の同窓生は、私個人にとつては、私が勤める(1971年3月以前)に卒業していた人と、勤めてから卒業した人とに分かれます。今年、創立35周年を祝う英知大学として計算すると、前者は8年間で後者は27年間となります。同窓会としては、初代の福原会長時代と、その後を引き継いだ現在の野村会長時代とに分かれます。20数年学内においてみてみると、スタッフの皆様はいろいろと苦労しながら同窓会のために働いておられました。それは現在もおなじようです。

しかし、大学の評価は、卒業生

「同窓会と国際言語教育センター」

我が英知大学は今年創立35周年を迎え、一気に組織的な国際化が促進されつつあります。昨年の5月に行われた、フランスのアンジェにある西フランス・カトリック大学(通称アンジェ大学)との姉妹校提携を皮切りに、今年1月には中国の国立大学、蘇州鉄道師範学院と姉妹校提携、さらに8月にスペインの友好校サラマンカ・ポソティフィシア大学に加えて国立レオン大学と協定校提携を結ぶ運びになりました。

これは英知大学に学ぶ学生諸君の中に、彼らの知性と語学力を海外に出てさらに一段と伸ばそうとする若者が増え、本学のみならず提携を結んだ相手校が、その意欲とこれ迄留学した先輩たちの実績を高く評価したからです。そして国際言語教育センターが4年前の7月に従来の国際交流委員会とL1センターとを統廃合して開設されたのもその証左であるといえます。

以来、留学する学生の数が提携校で20名近くになる状況が続いており、支援する我々センターにとつても実に嬉しい限りです。

そして何よりもその状況を大いに評価して下さる英知大学同窓会から、留学する学生への奨学金

を1997年度より50万円に増額していただけたことは、これから留学を目指すとする学生にとつて一つの発奮材料になると思われまふ。さらに留学を相乗的に支援できる態勢が、ようやく今秋から取れるのは、大きな喜びです。

長年来の願望であった、英語、フランス語、スペイン語の三つの言語にそれぞれのアシスタント・ティーチャーがそろうのです。これによってさらなる刺激を受け、留学する学生が一層増えることと思ひます。その意味で同窓会からの援助は有難いものです。

本学の留学生奨学制度が発足して3年目の1998年より頂戴し、今年度分も含めて、私の恣意的計算ですが、延べ27名が同窓会の厚意を受けていることになりました。

これ迄一度も停止されることなく、むしろ「意欲ある学生には援助を惜まず」の同窓会会長を始め、副会長、幹事役員の方々、ひいては会全体の暖かい心づかいによる、昨年度よりの奨学金の増額は、次世紀の英知大学を担う学生たちへの期待が籠もった励ましに他なりません。その意に沿うべく、有難く運用させていただきます。

なお、今年度の留学奨学金受給生は、対象学生12名の中より、村山奈々恵(英語英文学科)、富田恭透(同)、井上智世(同)、山下英夫(仏語仏文学科)、鈴木紗代(同)の5名が選ばれました。彼等は皆いづれ劣らぬ野望・意欲の持ち主たちで、必ずやや大いなる成果を持ち帰ってくれることと信じています。

国際言語教育センター所長

井田規文



神学科 松本信愛

会費徴収

システムに ご協力

今後の運営について

まず、皆様の日頃の同窓会活動に関するご支援・ご理解に礼を申し上げます。

さて、従来の「名簿用システム」の機能強化と「会費徴収の徹底化」を図るべく、新たに「会費徴収システム」ができました。

ただ、今後の運営には暗雲が立ちこめています。ご承知のように「仮事務局」の閉鎖状況の現在、「運営」は停止したままになっています。コストを負担頂き、構築したシステムではありませんが、あくまでも「仮事務局」での運営を想定したシステムとなっていますので、データの更新・追加に支障を生じています。

早急に、新たなルールを策定



し運用を図る所存です。今しばらくのご猶予をお願いいたします。

運営されるところなるのか？
について少し述べさせていただきます。

●入会金

入会金は、大学側のご理解と在校生及び保護者各位のご理解により、入学時より準会員となっていたいただき、初年度に完納頂くことになりました。

また、過去には、徴収事務の不備もあり、お納めいただけなかった方には改めて、再度お願いすることになっております。会員間の公平を期するためにも、お願いには快くご理解を賜わりますよう、お願い申し上げます。

●年会費

入会金のみでの運営では現状を脱却できないとの危惧からスタートし御理解をお願いした年会費ですが、今一層のご賢察をお願いする次第です。資金面の現状に少し触れさせていただきます。

家族的雰囲気のある英知大学は基本的に卒業生が少なく、同窓会の「自主運営」には、常に資金面での難題がつきまといまいます。事務局を運営するには、大学から場所の提供を頂いたとしても、専任事務職員を雇用する資金がありません。

おのずと大学の協力と大学にいる卒業生教職員、役員のボラ

ンティアに依存せざるを得ないこととなります。携わっていたいた方には負担がかり、今回の大学側窓口の突然の変更の遠因となっていると考えられます。

●名簿データの更新

お届けいただいた住所変更などを確実に処理できるようにいたします。また、卒業生の就職状況などのデータは、現在把握できていません。新卒者の方の就職活動の一助になるようデータの蓄積・メンテナンスも考えています。

●運用のキーポイント

入学生のデータ、卒業確定者のデータ、各クラブのデータなどを大学、学生会などと確実に定期的にリンクできる仕組みを早急に構築する必要がありますと考えます。各方面のご協力を切にお願いする次第です。

☆アンケート

自主運営に関してご意見をお願いします。委任状の近況欄にもお書き願えれば幸いです。

☆インターネット

近々、インターネットのホームページを掲載するプロジェクトがスタートしています。できればホームページでのオープンを考えています。つきましてはご協力頂ける方もご一報を！在校生も歓迎いたします。OBの方へクラブの現状を報告してみませんか。

香港園からのレポート

関東支部総会に

参加して

私は中国北京から留学し、'98年3月に英文科を卒業しました。

6月27日(土曜日)、私は同窓会本部の役員として、関東支部総会に出席させていただきました。出発の前日、私はとても緊張して眠れませんでした。

今回関東支部の総会は、東京目黒駅前の高級中華レストラン香港園で行われました。当日は中年女性中心に20名以上の方が参加され、大学側から英文科の井上博嗣教授も出席されました。兄弟、夫婦、家族についてお話をされました。そして、同窓会の野村会長はどんどん変化していく大学の現状をわかりやすく説明され、建設中のサピエンチア・タワーの外観図を皆さんに見せました。

その時、出席された皆さんの目が輝いていました。「見に行きたいな」という声も聞かれました。

総会で出席された方が自己紹介をしました。始めに、皆さんの年齢、性別からみると、私はきつと皆さんは幸せな家

庭を持っている専業主婦ばかりで、今子供も大きくなって、経済的にも余裕が出てきてからこの会に来てくれたのだと思います。

しかし、皆さんの積極的な自己PRを聞いて本当に驚きました。皆さんは日本国内、そして海外のいろいろなところで活躍しています。また、一流企業で頑張っている方もいました。

私は昨年の就職活動で、出身校があまり知られていないため、かなりショックを受けて泣きながら帰ってきたことがありました。でも、英知の卒業生の中で、こんな素晴らしい方がいて本当に嬉しかったです。

私も英知卒業生の一人。皆さんに負けないように、自分の小さな力で、仕事、同窓会、そして日中友好に貢献したいと思っています。

総会後、皆さんまだまだ話すことがいっぱいあったので、近くの喫茶店で二次会を行い、井上教授の授業を受けられた方は先生と懐かしい話で盛り上がりました。

'98年 英文卒

張倩蓉

同窓会功労賞受賞者の声 英知に思うこと

私は学生時代、学生会執行委員会に在籍していました。入った理由は、私が英知大学に入学した時、執行委員会主催の新生歓迎パーティの時、親切にしていたからだからというだけでした。

主な行事としては、新人生歓迎パーティ、体育祭のビアパーティ、学生大会、そして学園祭の運営等があります。私が在学中の時というか、最近の学生は大学のクラブ・サークルに入部するのはごくわずかです。学生と大学との接点が少ないという傾向があります。そのため、ごく一部の学生が集まり活動するという非常に苦しい状況でした。

そんな状況の中で自分が先頭に立って運営することになったのですが、まず執行委員会の仕事を楽しくできるように色々と工夫をする努力をしました。色々と改めていきたいことはありましたが、まず楽しい雰囲気にもつていくことができれば、大学が活気づいてくるのではと考えたから



です。

結果は皆さんにはわからなかったのではと思いますが私自身としては、一生懸命努力してきたつもりです。とてもしんどい四年間を選択してしまっただけに思いましたが、英知大学で、学生会執行委員会に入ってから良かったと思っています。そして後輩たちが、英知大学を楽しい大学にしていくくれたら嬉しく思います。

今年の9月にサピエンチアタワーができていますが、このタワーのように英知大学も高く飛躍して欲しいと思います。頑張ってください。

1998年卒 伊藤 実

FROM FRANCE 鈴木紗代



冠 痛

今回、私が英知大学および英知大学同窓会の奨学金を受けることができて本当に驚き、喜びに感謝の気持ちでいっぱいです。さて、借札の手紙の書き方について少しお話ししたいと思います。今、私はアッシュワリック大学にいます。7月講義を受けており、毎日お風呂や宿題などについて悩んでいます。また、自分を向上させるべく、8月よりホムズリをする事に決めました。そこで1年分の荷物を荷取りする予定です。7月はどこかの学校の倉庫にも参加し、クラスの外国人とともにスポーツをし、試合観戦も楽しみ、お祭りなども行っていました。また、お祭りのお片付けも大変な日々を過ごしていると思っております。では、簡単にですが、取見をさせていただきます。

7月28日

鈴木 紗代
野村 裕様

FROM USA 富田恭透

富田恭透



LORAS COLLEGE
Dubuque, Iowa

前略
今度英知大学に奨学金をいただけることになりました。前回は私を悩ませた英知大学に入学した時、執行委員会主催の新生歓迎パーティの時、親切にしていたからだからというだけでした。

さて私達は、今、ローラス大学でマナー・セッションを受けています。あの日まで留學生会委員長で忙しかつた私達は、ローラス大学でマナー・セッションを受けることになりました。私はこの夏にミシシッピ川を回り、少しでも多くの異文化に触れたいと思っています。アメリカでの生活を大切にしたいと思っております。その中でも人生で貴重な経験として、なるべく多くの人と交流して日本に帰りたいと思っております。

富田 恭透
野村 裕様

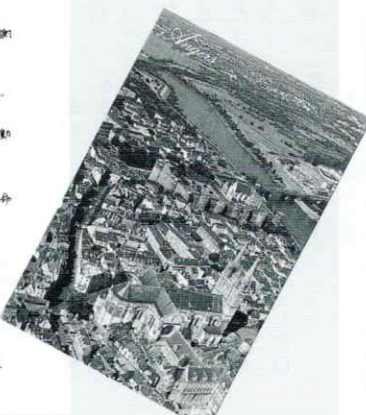
留学生からの手紙

FROM FRANCE 山下英夫

野村 同窓会会長様
この度、奨学金をいただけることになり、本当に感謝しております。
この奨学金は、私も多く大変な中、世界中から集まった資金と共に、勉強、娯楽の自由など、何でも交流し、学びます。
この度、嬉しい知らせに感謝、感謝の気持ちでいっぱいです。
感謝の気持ち、こようなら

1998年7月28日

山下 英夫



FROM USA 井上智世

井上智世

英知大学同窓会会長様 拝啓

前略
今回、私が英知大学および英知大学同窓会の奨学金を受けることができて本当に驚き、喜びに感謝の気持ちでいっぱいです。さて、借札の手紙の書き方について少しお話ししたいと思います。今、私はアッシュワリック大学にいます。7月講義を受けており、毎日お風呂や宿題などについて悩んでいます。また、自分を向上させるべく、8月よりホムズリをする事に決めました。そこで1年分の荷物を荷取りする予定です。7月はどこかの学校の倉庫にも参加し、クラスの外国人とともにスポーツをし、試合観戦も楽しみ、お祭りなども行っていました。また、お祭りのお片付けも大変な日々を過ごしていると思っております。では、簡単にですが、取見をさせていただきます。

井上 智世
野村 裕様

同窓会の奨学金を受けることに決まった留学生たちから、同窓会宛にお礼の手紙が届いています。それぞれ、勉学に交流に積極的な活動をしている様子が伝わってきます。

開学35周年とホームカミンググデー

「ウォー、すごいー360度バノ
ラマヤン。六甲山は見えるし、大
阪湾はもとより、あれ、大阪ド
ム！ウヒヤー阪急園田駅があんな
に小さく見える。新幹線も模型や
ん。もー最高の眺めやな」これ
は、今年の9月に完成された「サ
ピエンチア・タワー」の10階から眺
めたときの私の歓声でした。

この前に開学30周年をしたと思
つたらもう気がつけば、今年は35
周年。私も卒業して今年で7年が
たち、大学に対する思いもますます
す強くなり、卒業してから変わっ
ていく大学を見て、思わず「この
すばらしい眺め、これが我が母校
なのか」と叫びたくなるような歓
喜に自分自身酔いしれる思いです。

同窓生の皆さん、今年は一見の価
値があるかも知れませんよ。なか
か足を運ぶきっかけがない今、この
「サピエンチア・タワー」完成と開学
35周年記念を機にぜひ我が母校の雄
姿をとくとくこらんあれとおすす
めします。

今年の開学35周年記念は、一部
二部と分け、一部は、「サピエンチ
ア・タワー」の10階部分を使って
催し物と総会をする予定で、そし
て二部は、従来のホームカミング
デイを食堂で行ない、今回も全国
百貨店共通商品券などが当たるピ
ンゴゲームなどを行なう予定です。

まさに開学35周年記念にふさわしい
イベントになるようがんばっていま
すので楽しみにしていただければ幸
い입니다。

今年は、35周年。そして気がつけ
ば40周年とあつという間に年月が過
ぎて行くように思います。今、世の
中は激動の時代と言われ、もう数年
がたちます。その一方で、私たちは
年を重ね、残りゆくものは思い出に
変わり、そしてまた一方では新しい息
吹が注がれ、新しい時を刻もうとし
ています。

私たちが青春時代を過ごした母
校、時代とともに変わっていく大学。
しかし、私たちの心の中には、その
時代を生きた証があります。思い出
があります。

そして、その思いを快く受け入れ
てくれる母校。日常生活の厳し
い中で、母校に足を踏み入れる
ことは、私たちにとって、生き
る活力になり、また新しい息吹
をもたらしてくれる最高の場所
だと、私はそう思うのです。

今回も卒業されて10年目の方
(88年卒業) 20年目の方(78年卒業
30年目の方(68年卒業)に記念品
を用意しています。ホームカミン
グデイ会場受付でお申し付け下
さい。

92年英文卒 前中正彦

ロ・スワルス先生と英知同窓会 退官を祝う会

英知大学で30年間、フランス
語を教えてくださいましたポール・
スクルス先生が来春教壇を去ら
れます。

先生の多年にわたる暖かいご指導
に感謝すると共に、同じ学び舎で青
春を過ごした朋友同士、旧交を暖め
て、楽しいひとときを過ごしましょう。
多くの方々にご出席下さいますようご
案内申し上げます。

●とき 11月3日(火)午後3時より

●ところ 大学学生食堂内

●会費 不要

尚、準備の都合上、ご出席頂け
る方は10月25日までに左記までお
知らせ頂きたくお願い申し上げます。
皆さんのご参加をお待ちして
おります。

■連絡 お問い合わせ先

〒631-0006

奈良市西登美ヶ丘6丁目14-19

TEL&FAX 0742-41-5460

児玉まで



THE EDITOR'S COMMENT



前回の会報でお伝えしました

「教職員との懇親会」と「スポー
ツ交流会」は残念ながら中止とな
りました。楽しみにされていた
方々も多くいたかと思えます。紙
面を借り、あらためておわび申し
上げます。特に「スポーツ交流会」
は回を重ねる毎に参加者も増え、
盛り上がりを見せていただけだ
けに、ほんとうに惜しまれてなり
ません。

会として6月に月例会会宿を
行い、イベントの担当者も法定し、
意気込んでいた矢先の大学からの
中止要請でした。

なぜ中止しなければならぬの
かを問うことよりも、我々役員に
とっては同時に知らされた事務局
異動の方が深刻な問題でした。そ
の後、役員会は幾度となく召集さ
れました。議論を重ねたものの、
事務局をこれからの様に運営し
てゆくのか、これといった結論は
導き出せずに現在に至っています。
けれども、第一報を受けてた
だるるたえるばかりであった役員
たちの顔にも、少しづつ冷静さが

戻りつつあります。

時間はかかるかも知れませんが
が一步一歩前へと進んで行かね
ばなりません。我々が前任者か
ら引き継いだ5年前には、やり
遂げなければならぬことが山
のようにあり、遠方にくれたも
のでした。もう一度、振り出し
に戻ったつもりで始めればよい
のです。

幸い、この4年間で会員名簿
も完成しました。今年度は会費
徴収のコンピュータシステムも
完成し、動き始めようとしてい
ます。そして年2回、皆様に会
報という形で会の活動を報告す
ることもできます。確実に会は
発展しつつあります。

ただ、自ら役員会を振り返っ
てみると、役員それぞれが疲労
しつつあることは否めません。
それは人員の不足、そして限ら
れた人間での活動によるマンネ
リ化が原因としてあげられます。

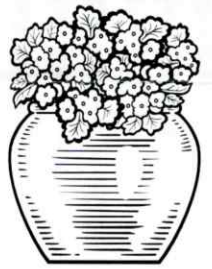
事務局異動という困難に立ち
向かうには体力が不足していま
す。このままでは意思なげに
して空中分解という最悪の事態
にもなりかねません。

今こそ会員皆様の協力が必要
です。お力をお貸しください。
一緒に英知大学同窓会をより立
てていきましよう。

英知大学同窓会 藤本滝三

大月 力

関東支部便り



私たち関東支部では去る6月27日に8回目の支部総会を開催しました。

会員が集まって食事をしながら大学からのゲストに現状を報告頂くのも有意義なのですが、わざわざ大学から出席して頂くのですから今年は一歩踏み込んで、食事会だけでは満足できないという贅沢な希望をお持ちの方にも十分喜んでもらえるよう、ゲストの先生に専門分野の簡単な講演会もやってもらおうと企画しました。

記念すべき第一回として英文科の井上神父に白刃の矢を立て主旨をお話したところ、ご快諾下さいました。会員の方々に案内状を出すときには特に英文科の卒業生には重点的にアプローチする内容にしました。

果して返送されたハガキには「久し振りにお会いできるのを楽しみにしています」とか「お会いしたかったのにできないのが残念です」などとコメントが書いてあり、今回は順調にすべり出したなと喜んだ次第です。

総会当日は井上神父に「親とし

て夫婦として」という題でお話いただきました。本人の満足度を測る方法として「来世があるとして、来世でも今と同じ配偶者と結婚しますか?」など興味深い内容で、あつと言う間に予定時間になってしまいました。

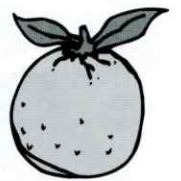
次に支部総会を兼ねた食事会に移ったのですが、去年の出席者の希望で今年もまた「香港園」にお願いしました。皆さん口が肥えていておいしい所がわかるのですね。また、総会には野村会長始め本部より3名出席していただき、去年までと違って、生の報告が聞けて総会らしい雰囲気が高まりました。

今年は大学創立35周年でホームカミングデイでも色々なイベントが企画されているようなので、関東支部としてレポーターを動員して、支部ニュースで皆さんに新鮮な情報を提供したいと思っています。それでは創立35周年の記念行事の成功を祈りつつ筆をおきます。

関東支部 78年 仏文卒

永森孝夫

和歌山グループ「発足記念講演会」を開催



英知大学和歌山グループが発足して間もないのに、なぜこのようなイベントを実施したかという点、それに大きな理由があったのです。地方にいて、公立の中学校、高等学校で進路指導をしていると、母校『英知大学』の知名度の大変な低さに悲しい思いをする毎日です。

大学の生き残りが難しいと言われている時期だからこそ、英知大学を多くの人に知ってもらいたい。寒川氏（県立田辺高等学校教諭・73年英文卒）はその思いが特に強く、グループを動かしました。

寒川氏は『英語教育』（大修館書店）『現代英語教育』（研究社出版）等の全国版の月刊誌や、朝日新聞をはじめ和歌山県内のマスメディア等に、今回の講演会について積極的に広く呼びかけてくれました。思いが同じ人たちが集まっているわけだから、計画はでき、準備が進むのですが、準備期間やスタッフの少なさ等を考えると、イベントが大きすぎたのではないかと不安が起きてきたのも事実でした。

講師については、寒川氏がEBSの植田二三氏と連絡を取り決定してい

ましたが、どのような人を対象に、また、どれくらいの人を集めが可能かなど、計画が進むにつれ、さまざまな課題が出てきました。そのような思いを消し去ってくれたのは、青年実業家の芝氏（83年西文卒）です。彼は田辺市青年会議所のメンバーとしての経験を生かして、さまざまアイデアを出し、アドバイスをするとともにボランティアを募ってくれました。和歌山県内の公立中・高専学校の先生方には大いに手伝っていただきました。

「母校の宣伝だから、一人でも多くの人に集まってもらいたい」の思いから同窓会の役員の方々には、「100名が目標です」と伝えたので「何て大きな事をいうんだ」と思われたと思いますが、情熱だけは強かったのです。

ところが、準備を進め、講演会の日が近づいてくると、ハッキリと把握している人数は15名程度だったため、当日は30名も集まってくれば幸いと、半ば諦め、その程度の人数分の座席だけ用意していました。

ところが、蓋を開けてみますと、予想を遙かに超える大勢の方が来て

くれました。わざわざ滋賀県からは野村会長、奈良や大阪からも30名近くの参加があり、1500名近くの参加者となりました。

講師の植田二三氏は、『英語を楽しく最短距離で身につける法』という題で、「外国語を習得するために、より大きな目標に向かって努力している人は、謙虚に何年も勉強するので、その目標とする外国語の実力が着実に身に付き、知性も人間性も磨かれていき、またやり甲斐を感じるので、すばらしい人生を歩んでいるので美しく輝いている。これこそ外国語学習の醍醐味である」など3時間余り、情熱を込めて語り、参加者に深い感動を与えてくれました。

講演会後、今回の講演会が盛会に終わることができた喜びを胸に、同窓会和歌山グループの発足の会を開いた「吉四六」で大いに語り合い、時の経つのも忘れてしまうほどでした。和歌山グループは、県内の紀南地方の4名、5名が中心となって活動していますが、今回の講演会を通して「人は宝、宝は人」の感を強くしました。大学を通してこの思いが広がるように希望しています。本年は、英知大学創立35周年の年です。人と人とのつながりで同窓会を盛り上げ、大学発展のために創意工夫し、協力していきましょう。

英文卒 出口 孝